受給事例　　その他

事例１　**線維筋痛症で年間約 60 万円（遡及分約 260 万円）を受給できたケース**

相談者	女性（50 代）
傷病名	線維筋痛症
決定した年金額と種類	年間約 60 万円（遡及分約 260 万円）／障害厚生年金 3 級
家族構成	夫と二人暮らし
従前の状況	もともとリウマチであったが、約 10 年前から吐き気、身体の痛み等で自宅ベッドから起き上がれない位ひどい状態となり病院を受診したところ線維筋痛症と診断された。医師からは入院治療や短時間の仕事をすすめられたものの家庭の事情から難しく薬を何度も調整してもらいながらフルタイムで仕事を続けていた。
現在の状況	全身の痛み、吐き気、頭痛、気分の落ち込み等の様々な症状がある。外出時は杖を使用している。 職場では休憩時間を多めにとれるように配慮してもらって何とか仕事を行っているものの休みの日は体調が悪く 1 日中寝込んでしまうことが多い。洗濯や買い物等は夫にやってもらい、自分で行う家事も体調の比較的良い日を選んで必要最低限しか行うことが出来ない状況。
就労状況	就労中（通勤時送迎あり）

事例２　**両目網膜色素変性症で年間約 190 万円を受給できたケース**

相談者	男性（50 代）
傷病名	両目網膜色素変性症
決定した年金額と種類	年間約 190 万円／障害厚生年金 2 級
家族構成	妻と子ども 1 人あり
従前の状況	高校生頃から暗い所で物が見え難いと感じる事があったがそれ以外はごく普通の生活を送る事ができ自動車免許を取得し車の運転をしていた。30 代の時に会社の人間ドッグで初めて眼底の異常を指摘され病院を受診し精査したところ網膜色素変性症と診断され服用開始。症状は少しずつ悪化していった。
現在の状況	人や物に頻繁に接触してしまい日中の明るい時間帯以外一人での外出が出来ない。また仕事の継続も困難となり退職せざるを得ず、今後は一般就労が難しい為障害者枠での職探しを行っている状況。
就労状況	無職

事例 3　**肝硬変症で年間約 120 万円を受給できたケース**

相談者	男性（40 代）
傷病名	肝硬変症
決定した年金額と種類	年間約 120 万円／障害厚生年金 2 級
家族構成	一人暮らし
従前の状況	約 16 年前、仕事後の帰宅途中に倒れ救急搬送をされた。医師から薬物性肝障害と診断され、以後外来通院で薬の処方や点滴治療を受けたが症状が改善することはほとんどなかった。約 5 年前に出勤途中で意識が無くなり再び倒れ病院へ救急搬送をされた際に肝硬変症と診断された。同時に仕事が続けられなくなり退職をした。
現在の状況	月に数回外来通院をして点滴治療を受けている。吐血や下血が頻繁にあり腹水がたまり、全身に浮腫みがある。意識消失発作も続いている。 ADL が著しく低下しており車椅子生活となっている。
就労状況	無職

事例 4　**気管支喘息で年間約 60 万円（遡及分約 300 万円）を受給できたケース**

相談者	女性（60 代）
傷病名	気管支喘息
決定した年金額と種類	年間約 60 万円（遡及分約 300 万円）／障害厚生年金 3 級
家族構成	1 人暮らし
従前の状況	約 11 年前から呼吸の苦しさや長引く咳を自覚するようになり、病院を受診したところ気管支喘息と診断され治療を開始。主な症状は呼吸困難、激しい咳、痰等があり、発作時は吸入ステロイドを使っても中々治まらず肩で息をするような苦しい状態が続いた。喘息の症状がひどく月数回会社を休むことも度々あった。
現在の状況	月 1 回の定期受診に加え、症状が重い時は都度通院をしている。約半年程前からは特に症状が悪化。階段を登ることは出来ず、連続歩行は 10 分程度が限界。 仕事は、体調に応じて勤務時間を柔軟に調整させてもらう等の配慮を受けながら何とか続けている。家事は週 2～3 日体調の良い日を選べば行えるものの部分的に家族の援助を受けている。
就労状況	フルタイム勤務

事例 5　**慢性心不全で年間約 78 万円を受給できたケース**

相談者	女性（50 代）
傷病名	慢性心不全・拡張型心筋症
決定した年金額と種類	年間約 78 万円／障害基礎年金 2 級
家族構成	夫・子どもと三人暮らし
従前の状況	重症型肝炎により救急搬送され、入院中に心臓に血栓が見つかり、 心筋炎との診断を受けたが、退院後は経過観察程度の通院であった。数年後、動悸、食欲低下、息苦しさを覚え再受診。症状悪く、 特発性拡張型心筋症と診断を受け、ペースメーカー（CRT-D)の 埋め込み術を受ける。
現在の状況	月 1 回の外来通院をして治療を続けている。 疲れやすいため休憩をとりながら就業している。軽い坂道でも息切れを感じる。
就労状況	事務職

事例 6　**慢性疲労症候群で年間約 165 万円を受給できたケース**

相談者	女性（30 代）
傷病名	慢性疲労症候群
決定した年金額と種類	年間約 165 万円／障害厚生年金 2 級
家族構成	夫と子ども 1 人
従前の状況	20 代後半頃、手足の脱力感や全身倦怠感を自覚し仕事に支障をきたす状態となった為病院を受診、治療を開始することになった。その後病院を何カ所か変更しながら治療を続けたが症状は殆ど改善せず、そのうち痺れや痛みも強く出るようになり移動時は杖や車椅子を使うような生活となった。 様々な検査をした結果、1 年程前に慢性疲労症候群の診断を受けた。
現在の状況	2 週間に 1 回痛み止めのステロイド内服、ステロイドパルス点滴を行っている。 常時、全身倦怠感、全身の痛み、下肢のムズムズ感、四肢の痺れと強張り、頭痛等がある。 ほぼ毎日、半日以上横になって過ごしており、家事全般は家族にやってもらっている。 精神的に落ち込むことも多く、生活全般に支障が出ている状況。
就労状況	就労不可